

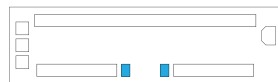
上原美術館 仏像ギャラリー

仏像のかたち

上原美術館の仏像ギャラリーは
たくさんの仏像に出あえる場所
近現代の仏師たちによって造られた約130体の仏像は
さまざまな姿をしています
このたくさんの仏さまの中から
代表的なお姿とその意味をご紹介します

こんごうりき し
金剛力士

フロアマップ



出入口



1



2

① 金剛力士(阿形) ② 金剛力士(吽形)

金剛力士(仁王)は境内に魔が侵入するのを防ぎ、仏法と
仏教徒を守る二尊一対の仏です。

いずれも筋骨隆々としたたくましい姿で、一方は口を
大きく開ける阿形とし、他方は口を閉じる吽形にするな
ど、左右対称の姿をしています。阿吽の姿には、「物事の
始まりと終り」、「陰と陽」、仏道修行の「発心と悟り」を象
徴するなど様々な解釈があります。

菩薩

ぼ

さつ

菩薩は如来にょらいを目指し、一切衆生(生きとし生けるもの)を救済する菩薩行ぼ さつぎょうを続ける仏たちです。菩薩は長い頭髪を高く結い上げ、上半身裸で、両肩てん ねに天衣をかけ、条帛じょうはくという布をたすきにかけ、宝冠ほうかんや瓔珞ようらく(アクセサリ)を身に着ける華麗な姿をしています。が、これは仏教を開いた釈迦が、古代インドの王子であった頃の姿を写すものです。

2

せんじゅかんのん に じゅうはち ぶ しゅう 千手観音と二十八部衆



- 1 毘沙門天 (多聞天) 2 神母天 (鬼子母神) 3 摩醯首羅天 (自在天) 4 帝釈天 5 梵天 6 密迹金剛力士 (仁王・忞形)
- 7 千手観音菩薩 8 那羅延堅固王 (仁王・阿形) 9 婆藪仙人 10 摩和羅女 11 大弁功德天 (弁財天) 12 乾闥婆
- 13 毘楼博叉天 (広目天) 14 東方天 (持国天) 15 金大王 16 沙羯羅龍王 17 満善車王 18 緊那羅
- 19 散脂大将 20 迦楼羅 21 満仙王 22 風神 23 雷神 24 金色孔雀王 25 阿修羅 26 金毘羅王
- 27 難陀竜王 28 毘楼勒叉天 (増長天) 29 摩睺羅伽 30 畢婆迦羅王 31 五部浄居天

千手観音菩薩【⑦】

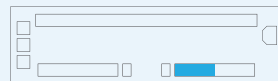
千手観音菩薩は千本の腕を持つ変化観音(観音の化身)で、たくさんの腕は、救済の力の大きさを象徴しています。千本の腕、五百の頭を持つといいますが、仏像としては、省略した四十二臂(臂は腕の数)で、本面以外に十面を持つ姿に省略するのが一般的です。

二十八部衆と風神・雷神【①～⑥, ⑧～③①】

二十八部衆と風神・雷神は千手観音の眷属(従者)で、それぞれ能力に応じて、千手観音の救済を手伝います。

当館の二十八部衆・風神・雷神は、京都・三十三間堂の国宝の群像をモデルにしています。

フロアマップ



出入口

3

さまざまな菩薩



5



1



6



2



7



3



8



4



9

① 十一面観世音菩薩

②~④ 聖(正)観世音菩薩

⑤ 菩薩半跏像

⑥ 慈母観世音菩薩

⑦ 地蔵菩薩

⑧ 弥勒菩薩

⑨ 聖(正)観世音菩薩

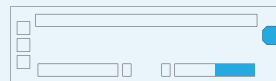
十一面観世音菩薩【①】

本面以外に十面を持つ変化観音。たくさんの顔は全方角をもれなく救済する力を象徴しています。本面以外は頭上面とするのが一般的で、頂上仏面(如来の顔)、忿怒面、穏やかな菩薩面、牙をむき出す狗牙上出面など様々なものがあります。なお当館の十一面観音像は、滋賀県・渡岸寺の国宝像をモデルにしており、本面の左右にやや大きな脇面を配し、後頭部に諸悪を笑い飛ばす大笑面をあらわす天台密教独特の姿です。

聖観世音菩薩(観音菩薩)【②～④, ⑨】

観音は、人々をあらゆる災難(七難)から救い、様々な願いをかなえてくれる慈悲の仏として、時代や民族を越えて最も信仰を集めた仏です。観音は、時と場合、相手に応じて様々な姿に変身する変化の仏ですが、本来の姿を聖観音と言います。聖観音は一つの顔に二本の腕で、頭上に髻を結い上げ、装身具で身を飾る姿ですが、宝冠の正面に化仏(小さな如来像)をあらわし、未敷蓮華(蕾の蓮華)を持つのが特徴です。

フロアマップ



出入口

慈母觀世音菩薩【⑥】

「觀音經」によると、觀音は理想的な子を受ける仏でもあります。この子授けの功德に加え、觀音に子供の無事な成長を祈る信仰から生まれた姿が慈母觀世音菩薩で、子供を抱く姿が特徴です。

地藏菩薩【⑦】

万物を産み育む大地の徳を持つ地藏菩薩。頭髮を剃り、袈裟を着る姿は菩薩の例外です。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ姿が基本で、錫杖はどのような場所にでも赴き、救済する地藏の功德を象徴しています。人が死後、輪廻転生する六道のいずれにあっても救済を行うとされ、特に惡趣と呼ばれる地獄や、餓えて苦しむ餓鬼の世界の救済者として、平安時代後期以降、多くの信仰を集めました。一方、幼くして亡くなり、賽の河原で鬼にさいなまれる子供を地藏が守るともいい、子供の守護仏としても信仰されています。

弥勒菩薩【⑧】

弥勒菩薩は、釈尊入滅後、56億7千万年後にこの地上に現われ、釈尊の教化に漏れた者を救済するという未来の仏。現在は兜率天という天界にあって、救済の方法について思索しているともいいます。片脚を踏み下げ、右手を頬に当てて思惟する姿の像が有名ですが、これは飛鳥時代から奈良時代前期に流行した姿。その後は、持物として宝塔を持つ姿が基本形で、本像はこれに従う姿です。

如来

によ らい

如来とは、この上ない悟りを開いた者で、
仏教で最も尊崇そんすうされる存在です。如来には
三十二相と総称そうされる身体的特徴がある
とされ、如来像はこれを踏まえた姿です。
如来の特徴のうち、最も目につくのは粒状
の頭髪ら ぼつである螺髪。螺髪は三十二相のうち、
体毛が全て右巻きに巻くという特徴を表現
するもので、螺髪で他の像と容易に区別
することができます。髻もとどりを高く結い上げる
大日如来は如来の例外です。

4

だいにちによらい
大日如来

フロアマップ



出入口



宇宙へんまんに遍満する真理そのものとされる真言密教しんこんみつきょうの中心仏。森羅万象は大日如来のあらわれとします。その姿は他の如来像と異なり、
頭上に高く髻もとどりを結い上げ、上半身裸で条帛じょうはく（長い布）を襴たすきにかけ、宝冠ほうかんや装身具を身に着けるなど、菩薩と似た姿をしています。大日如来には金剛界曼荼羅こんこうかいまんだらに見られる金剛界大日如来と、胎藏曼荼羅たいざうまんだらの中央に描かれる胎藏大日如来の二種があり、前者は忍者のような智拳印ちけんいんを、後者は坐禅の時に結ぶ法界定印ほっかいじょういんという手のかたちをしています。当館の像は金剛界大日如来です。

5

やくしさんぞん じゅう に しんしょう 薬師三尊と十二神将



- ① び か ら たいしょう 毘羯羅大将(子)
 ② しょうとら 招杜羅大将(丑)
 ③ しんだら 真達羅大将(寅)
 ④ まこら 摩虎羅大将(卯)
 ⑤ はいら 波夷羅大将(辰)
 ⑥ いんだら 因達羅大将(巳)
- ⑦, ⑧ がつこうぼさつ 月光菩薩
 ⑨ やくしにょらい 薬師如来
 ⑩, ⑪ にっこうぼさつ 日光菩薩
- ⑫ さんちんら 珊底羅大将(午)
 ⑬ あにら 頰爾羅大将(未)
 ⑭ あんちんら 安底羅大将(申)
 ⑮ めきら 迷企羅大将(酉)
 ⑯ ばささら 伐折羅大将(戌)
 ⑰ くびら 宮毘羅大将(亥)

薬師三尊【⑦～⑪】

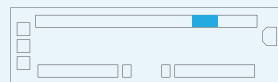
薬師如来は青い光に包まれた東方の浄瑠璃^{じょうるり}世界に住む仏で、薬壺^{やっこ}を持物とし、病を癒やし、盲目などを治すとされる医療の仏です。一方で、天変地異や災害を除く仏でもあり、古代には国や地域を守る仏としても信仰を集めました。薬師如来の脇侍は日光菩薩と月光菩薩^{がっこう}ですが、この二菩薩は薬師如来の元にいるたくさんの菩薩たちのリーダーとされるだけで、その性格は不明です。薬師如来、日光、月光菩薩をあわせて薬師三尊と呼びます。

十二神将【①～⑥, ⑫～⑰】

十二神将は各々7,000の部下を従える大將軍です。それぞれ十二方位を分担、薬師如来とその信仰者を守り、願いを聞き届ける神々ですが、十二の時をも分担するとされることから、頭上^{えと}に干支の印をいただく干支の守り本尊となりました。

当館の日光・月光菩薩像は東大寺三月堂の伝日光・月光菩薩像を、十二神将は興福寺東金堂の像をモデルにしています。

フロアマップ



出入口

6

しゃ か さんぞん し てんのう 釈迦三尊と四天王



1



2



3



4



5



6



7



8

1 こうもくてん
廣目天

2 ぞうちょうてん
増長天

3 ふげん ぼさつ
普賢菩薩

4 しゃ か にょらい
釈迦如来

5 もんじゅ ぼさつ
文殊菩薩

6 じこくてん
持国天

7 たもんてん
多聞天

8 いだてん
韋駄天

釈迦三尊【③～⑤】

仏教の開祖・釈迦如来は、右手を上げる施無畏印と左手を下げる与願印が特徴。施無畏印は、私たちの訴えを受け止め、心の怖れを除いてくれることを、与願印は、私たちの願いに応じてそれをかなえてくれる働きをあらわしています。

釈迦如来の脇侍は文殊菩薩と普賢菩薩で、あわせて釈迦三尊といいます。

智慧の仏である文殊菩薩は、獅子に乗り、智慧を象徴する剣と経巻を持つ姿が一般的ですが、当館の像のように経巻の代わりに蓮華を持つ像もあります。

普賢菩薩は、白象に乗る姿が特徴で、行願の仏とされ、仏の悟りを求める固い菩提心を象徴する菩薩。法華経の護持を釈迦如来から託されたところから、普賢菩薩は法華経を信じる者の守護仏、さらに法華経は女性の成仏を説くところから、女性の守護仏と考えられ、平安時代の貴族女性の信仰を集めました。

四天王【①, ②, ⑥, ⑦】

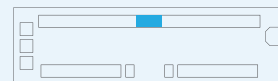
当館の釈迦三尊の四方に立つのが四天王です。神々の王である帝釈天に仕えて四方位を守護し、東は持国天、南を増長天、西を広目天、北を多聞天(毘沙門天)が担当しています。悪を懲らし、人々の善悪を観察・記録して帝釈天に報告、賞罰を司る厳しい神々ですが、魔や災害から仏法と仏教徒を守る頼もしい神々でもあります。

韋駄天【⑧】

韋駄天は古代インドの神、スカンダが仏教に採り入れられたものです。

伝説によると、釈尊の遺体が火葬された時、特別な力を持つ仏牙(仏の歯)が人の手に渡るのを恐れた悪魔が相談の上、足の速い捷疾鬼に盗ませたといいます。この時、逃げ去る鬼を取り押さえて仏牙を取り返したのが韋駄天で、そこから俊足の盗難除けの神となりました。また走り回って食物を集めてくれるとも言い、僧の生活空間の場である庫裏に祀られます。

フロアマップ

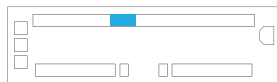


出入口

あ み だ に よ ら い う ん ち ゅ う く よ う ぼ さ つ
阿弥陀如来と雲中供養菩薩



フロアマップ



出入口

① 阿弥陀如来 ②～⑨ 雲中供養菩薩

さいほうじゅうまんおくど
西方十万億土のかなたにあるという極楽浄土に住み、信仰する者を必ず極楽に迎え取るとされる仏が阿弥陀如来です。

その姿は釈迦如来とほぼ同じですが、親指と他の指で輪を作る印相を結ぶのが特徴です。当館の像のように、指で輪を作った右手を上げ、左手を下げる印相を来迎印と言ひ、阿弥陀如来が信仰者を極楽浄土に迎え取る時の姿です。

観音菩薩と勢至菩薩を脇侍とするのが普通ですが、さらに雲中供養菩薩を伴うこともあり、当館の像はその様をあらわしています。

雲中供養菩薩は、踊りを踊ったり楽器を奏でたりして阿弥陀如来と極楽往生(極楽に生まれ変わることを果したものを褒め讃える仏たちです。

明王

みょう

おう

明王は忿怒^{ふんぬ}の姿をした、恐るべき仏たちです。この姿は、人を諸悪や災害から守るとともに、煩惱^{ぼんのう}が盛んで悪に走る者を威力^{きょうか}で教化^{きょうか}する姿で、如来^{にょらい}の化身^{けしん}とも、如来^{ふんぬ}が忿怒^{ふんぬ}の姿となって現れた仏とも言われています。

9

あいぜんみょうおう
愛染明王



フロアマップ



出入口

愛欲^{ぼだいしん}を転じて菩提心^{ぼだいしん}(仏の悟りに向かう心)に転じるとされる「煩惱^{ぼんのう}即菩提^{ぼだい}」の仏。人を魅了^{きようあいほう}する敬愛法^{きようあいほう}の本尊とされたほか、罪障を滅して災厄を除く息災法^{こくさいほう}、敵を降伏^{こうふく}させる降伏法^{こうふくほう}、種々の利益を願う増益法^{ぞうやくほう}など様々な願いに応じてまつられる仏です。

江戸時代には縁結びの仏、遊女の守護仏、「愛染」の語が「藍染」の語に結びつき、染め物業者の守護仏ともなりました。

8

ふ どうさんぞん はちだいどう じ 不動三尊と八大童子



- ① 指徳童子 ② 恵光童子 ③ 烏俱婆識童子 ④, ⑤ 制吒迦童子 ⑥ 不動明王
 ⑦, ⑧ 矜羯羅童子 ⑨ 清浄比丘 ⑩ 恵喜童子 ⑪ 阿耨多童子

不動三尊【⑤～⑦】

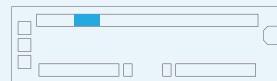
不動明王^{ふ どう しょう おう}は大日如来^{だい にち に よ ら い}の使者、あるいは化身^{け し ん}とされる最強の明王で、魔や敵を降伏^{こう ぶく}し、災厄を消除、煩惱^{ぼんのう}を焼き尽くす仏。迦楼羅^{か ら}（火の鳥）でできた火炎光背^{か えん こう はい}を背に、岩座^{いわ ざ}か材木^{ざい ぼく}を積んだような瑟瑟座^{しつしつ ざ}に載り、龍が巻きついた俱利伽羅剣^{く り か ら けん}と、悪を縛^{ばく}す羂索^{けんざく}を持つ姿が特徴です。不動明王に矜羯羅童子^{こん が ら どう じ}と制吒迦^{せい た か}童子^{どう じ}を配したものを不動三尊といいます。

矜羯羅童子は素直な善性の童子で、制吒迦童子は「ともに語りがたいほどの悪性の童子」とされますが、二童子はそれぞれ一長一短があり、それぞれの短所を補い合う存在とも言われています。

八大童子【①～④, ⑧～⑪】

不動明王に従う八尊で、前述の矜羯羅童子、制吒迦童子に恵光童子^{え こう}、恵喜童子^{え き}、烏俱婆誑童子^{う ぐ ば が}、清浄比丘^{しょうじょう び く}、指徳童子^{し とく}、阿耨達童子^{あ のく た}を加えたものです。仏像として作られるのは極めて稀^{まれ}ですが、当館の像は、高野山・金剛峰寺^{こんこう ぶ じ}に伝わる運慶作の像をモデルに造られたものです。

フロアマップ

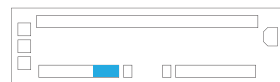


出入口

13

ご だいみょうおう 五大明王

フロアマップ



出入口



1



2



3



4



5

- ① だい い とくみょうおう 大威徳明王
- ② ぐん だ り 軍荼利明王
- ③ ふ だう 不動明王
- ④ こう ざん ぜ 降三世明王
- ⑤ こん ぎょう や しや 金剛夜叉明王

不動明王を中心に、東に降三世明王、南に軍荼利明王、西に大威徳明王、北に金剛夜叉明王を配する五尊で、敵を降す調伏法や、出産祈願や国家安泰を祈願する五壇法の本尊です。

降三世明王は足元に古代インドの破壊神である大自在天(シヴァ神)とその妃・烏摩を踏む姿、軍荼利明王は手首足首に蛇を巻く姿、大威徳明王は六足で水牛に乗る姿、金剛夜叉明王は正面の顔に5つの目を持つ姿が特徴です。

10

しちふくじん 七福神

フロアマップ



出入口



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

- ① 寿老人 (じゅうろうじん) ② 布袋 (ぼてい) ③ 福祿寿 (ふくろくじゅ) ④ 大黒天 (だいこくてん) ⑤ 弁財天 (べんざいてん) ⑥ 恵比寿 (えびす) ⑦ 毘沙門天 (びしゃもんてん)

七福神はインド(大黒天・弁財天・毘沙門天)、中国(布袋・寿老人・福祿寿)、日本(恵比寿)で、それぞれ別々に成立した神が、室町時代の日本で一組となった神々です。

福神が縁起の良い数である七尊集まっているとところから、七福神像は縁起物としても好まれ、江戸時代には、正月など特別な日に、七福神をまつる寺社を巡る七福神詣でも盛んでした。七尊と功德には諸説がありますが、一例をあげます。

- 寿老人… 延命長寿・富貴
布袋… 招福・夫婦円満・子宝
福祿寿… 長寿、人望
大黒天… 五穀豊穰・福德開運・子孫繁栄
弁財天… 芸能・弁才・知恵・金運財運
恵比寿… 海上安全・大漁・商売繁盛
毘沙門天… 厄除け・財運・大願成就

11

えと 千支の守り仏

フロアマップ



出入口



8



7



6



5



4



3



2



1

① 千手観音 (子／北)

③ 文殊菩薩 (卯／東)

⑤ 勢至菩薩 (午／南)

⑦ 不動明王 (酉／西)

② 虚空蔵菩薩 (丑・寅／北東)

④ 普賢菩薩 (辰・巳／南東)

⑥ 大日如来 (未・申／南西)

⑧ 阿弥陀如来 (戌・亥／北西)

江戸時代、人気のあった仏と生まれ年の守護を組み合わせ考案されたもので、八方位の守護仏も兼ねています。

天部

てん

ぶ

天部はバラモン教やヒンドゥー教、各地の民間信仰の神々などが、仏法を守る護法善神として仏教に採り入れられたものです。名の後ろに「天」と付くものが多いのが特徴です。

12

てんぶ 天部の神々

フロアマップ



出入口



1



2



3



4



5

① あしゅら
阿修羅

② べんざいてん
弁財天

③ びしゃもんてん
毘沙門天

④ きちじょうてん
吉祥天

⑤ ざ おうこんげん
蔵王権現

阿修羅【1】

古代インド神話に登場する阿修羅は、復讐に燃えて常に神々の王・帝釈天に戦いを挑む、悪神でしたが、仏教に採り入れられた後は、仏の教えを受けて改心したとされ、仏法を守護する護法善神に位置づけられました。

阿修羅は単独で信仰されることはなく、八部衆や千手観音の眷属である二十八部衆の一尊として造立されました。

本像は興福寺八部衆像の一つで、国宝として名高い、興福寺阿修羅像を写したものです。

弁財天【2】

古代インドの川の女神、サラスヴァティーが仏教に採り入れられたもので、川のせせらぎから、音楽の神、よどみなく流暢に語る弁才の神とされ、また川の恵みから、水の神、農耕の神、財を授ける神としても信仰されました。一方、軍神でもあり、武将の信仰も集めました。

弁財天には二臂(臂は腕の数)で琵琶を奏する像と、八臂像があります。本来、八臂像の持物は全て武器でしたが、日本においてはそのうちの二臂に蔵の鍵と宝珠を持たせ、財福神としての性格も併せ示す姿が一般的。さらに頭上に鳥居と人頭蛇身の宇賀神をあらわすとされ、当館の像もこの姿です。

毘沙門天(多聞天)【3】

古代インドのクベーラが仏教に採り入れられたもの。本来は財宝神でしたが、やがて敵から国や都市、城、信仰者を守る神と考えられるようになりました。

四天王のリーダーとして北方の守護を担当します。鎧兜で武装した姿で、右手に突き刺す武器の三叉戟を、左手に宝塔を捧げ持つ姿が特徴です。

吉祥天【4】

古代インドの美と幸運の女神、ラクシュミーを起源とし、華やかな衣装を

まとった美しい女神です。

古代、国や地域を襲う災害は、為政者の犯した罪が原因で起こるという考え方がありました。吉祥天には罪を消除する力があるため、為政者が吉祥天に罪を懺悔し祈ることで国の災害を払う、吉祥悔過が古代には盛んに行われました。

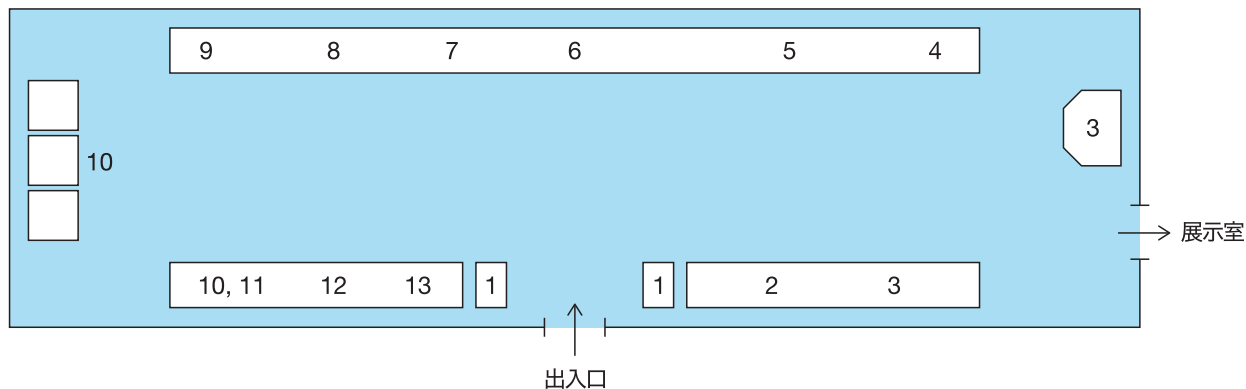
当館の像はひととき美しい仏像として名高い、京都・浄瑠璃寺の鎌倉時代の吉祥天像を写したものです。

蔵王権現【5】

奈良県吉野の金峯山の神で、山伏が担う修験道でまつられる日本独自の仏。

伝説によると、修験者の役行者の前に、初め釈迦如来、次いで千手観音、さらに弥勒菩薩が出現しましたが、これらの仏では末世の衆生は救済できないとさらに祈ったところ、岩中から湧出したのがこの仏といいます。一面三目二臂で、右手で金剛杵を振りかざし、片脚を踊り上げた姿が特徴です。

仏像ギャラリー フロアマップ



1 金剛力士(仁王)

2 千手観音と二十八部衆

3 さまざまな菩薩

4 大日如来

5 薬師三尊と十二神将

6 釈迦三尊と四天王

7 阿弥陀如来と雲中供養菩薩

8 不動三尊と八大童子

9 愛染明王

10 七福神

11 干支の守り仏

12 天部の神々

13 五大明王